

# 第5次総合計画で論戦

11月28日から12月議会が始まりました

いよいよ12月議会が始まりました。

## 総括質疑は3会派だけ

市長の提案説明が終わって、総括質疑になりました。通告したのは3会派(全部で9会派ある)です。最初が市民クの田村恒夫議員、2番目が私、最後は市政会議の矢野学議員の順です。

## 5次総の将来都市像で論戦

3人が共通して取り上げたのは、第5次総合計画の問題でした。これまでの総務常任委員会で議論してきた問題で、「なぜ今、新市建設計画で掲げた将来都市像と異なった都市像を掲げなければならぬのか」ということです。「新市建設計画」と5次総の期間は、ぴったりと一致しています。「新市建設計画」を決めてから3年目ですが、将来都市像を変えなければならぬような状況の変化は見当たりません。つまり変える必要性がどこにもないのです。にもかかわらず、それを変えようというわけです。

## 背景に何があるのか

ここまで頑(かたく)なに「変える」というと、「裏に何があるのか」と勘ぐりたくなります。議員の性でしょうか。市長は、「新市建設計画は10年間有効です」といいますが、どうもこの「新市建設計画」の枠組みを崩したくてしようがないように思えます。

私の推測ですが、次々と圧縮されていく普通建設事業費を目の当たりにした上越の経済界が、巻き返しに出てきたのではないかと思えます。「新市建設計画」、特に財政フレームをそのままにしておいては先が思いやられる。「新市建設計画」に取って代わる5次総で枠組み突破の突破口を開こうということでは。

## 「新市建設計画」の特徴

上越市の「新市建設計画」には、大きな特徴があります。「財政破綻をさせない」ために、10年間の財政シミュレーションに基づいた財政計画がセットになっています。財政シミュレーションの結果、10年間で約200億円の歳入不足が

見込まれることから、経常経費を確保して普通建設事業費を200億円圧縮し、それを共通事業費と地域事業費に分け、さらにその地域事業費を一定の算式で各区と旧上越市に振り分けたのです。今回、5次総策定に当たって再度財政シミュレーションをしたところ、地方交付税の減少で、さらに普通建設事業費を圧縮せざるを得なくなっています。

## 委員会で修正案を提案

市民会議、市政クラブ、それに上越市議員団が加わって、「総務常任委員会に修正案を出そう」ということになりました。上越市議会始まって以来の出来事です。総務委員である吉田侃議員、田村恒夫議員、それに私の3名で提案しました。吉田議員が提案説明を行い、私が賛成討論を行いました。結果は、賛成3で否決されました。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

## 市政レポート

2007年12月9日 No.167  
発行・杉本敏宏事務所  
上越市東本町5丁目1番38号  
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832

## 市立保育園の通園バス代

# 子育て支援に逆行していませんか

## 市立保育園の通園バス代——28日の総括質疑で



なりませんが、一石を投じるこ  
とになったと思います。何でもかんで  
も「行革」の方向からだけ、ものを見  
る考え方を改ためなければなりません。

が子育て支援になるとは思われません。  
合併協議で「新たな制度」とされたのですから、「新  
制度構築の根底に子育て支援がなければならぬ」と  
考えての質問でした。

行政改革・財政負担の面からだけの検討だったよう

です。「再検討する」ということには

13区を中心に遠融地から通園  
する園児のために通園バスが運行  
されています。その利用料(バス代)  
は、無料のところから2千円台まで  
と異っていることから、合併協議で  
は、「新たな制度をつくる」とことと  
されてきました。提案された新制度では、園児ひとり  
月額2500円とされ、13区のほとんどで、値上げ  
になります。  
総括質疑では、「子育て世代からバス代を徴収する  
ことは、子育て支援に逆行していかないか」と問題提起  
をしました。



## 旧高田盲学校跡地の問題

寺町2にあった県立高田盲学校が閉鎖され、その跡地と施設が  
「上越地域福祉拠点施設」として整備が進められています。構想  
が発表されてから厚生常任委員会で、いろいろな議論がなされて  
きました。12月議会に、補正予算が提案されています。10億  
円の当初予算を12億4千万円に増額し、その内4億円を今年度  
中に、残りを20年度に執行するという内容です。総括質疑で取  
り上げました。

「当初予算との主な変更点」とし  
て6点あげられているのですが、そ  
れぞれの変更に伴う必要性が明  
らかにされていません。それどこ  
か、当初予算の10億円も何にどれ  
だけ使うのかが示されていなかった  
のです。

「大枠で予算を認めて下さい。使  
いはまかせて下さい」ということ  
ですが、こんなことは到底認めるわ  
けにはいきません。「ただちに資料  
を提出するように」求めました。

3日の厚生常任委員会に資料が  
提出されました。これでようやく1  
2億円の使い道があらかになりました。

